

タイトル	外出支援にみる利用者の自立への取り組みの成果 ～身近になったバス外出～
------	--

事業所	社会福祉法人 友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム
発表者：元山 大輔（もとやま だいすけ）	アドバイザー：山口 公司（やまぐち こうじ）
共同研究者：三浦 好顕（みうら よしあき）	

電 話	03-3416-3164	E-mail	kinutaho-mu@yuai.or.jp
FAX	03-3416-0281	URL	http://www.yuai.or.jp/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	東京都世田谷区に平成元年開設の本入所 60 名ショートステイ 4 名の特養です。3 グループに分かれてのグループケアの形態をとっています。「オムツ 0 ゼロ」特養を目指しつつも、失われがちなデリケートなケアを大切にしています。利用者も職員も元気で活気のある特養です。取り組みに関するご相談・施設見学は随時受け付けております。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

課題として、以前より利用者やご家族から外出支援の要望が多数あったが、日々の業務に追われ、実現されることなく経過していた。ケアプランに計画を掲げても結局実施できないことが多く、稀に近所を散歩することができても車での外出や外食はできず、それも職員が休日に出勤をしないと叶えられない状況であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

利用者が「行きたい所に行ける」・「やりたい事ができる」を実現するために、「水分・食事・排泄・運動」を基本としたケア（以下、「基本ケア」）の理論を取り入れ、まず ADL の向上を期待した。それをもとに、生き甲斐や楽しみを持って施設生活を過ごしていただけることを目的として外出支援を計画し実施した。

《3. 具体的な取り組みの内容》

平成 21 年度より、事業計画に「自立支援 5 カ年計画」を掲げ、老施協主催の「介護力向上講習会」に毎年参加し、「基本ケア」の理論を継続して学んできた。施設内でも勉強会を開催して介護職だけでなく他職種ともこの理論を共有し、協働して組織的に実践してきた。その実践が充実してきた平成 24 年より外出支援を開始した。小型マイクロバスのチャーターとご家族やボランティアの協力を前提に、近郊の外出スポットへ利用者 10 名に対し職員 4 名程にて、平成 26 年 6 月までに

計 9 回/5 カ所/延べ 85 名の外出支援を実施した。

《4. 取り組みの結果と考察》

外出支援に参加した殆どの利用者からは「楽しかった」「また次も参加したい」等、生きる意欲につながるような前向きな感想が寄せられ、写真を飾ったりお土産を眺めたりと生活に潤いがみられるようになった。他方、職員からも「基本ケアの成果が確認できた」「ケアの目的が見えた」等の意見が上がり、外出支援という社会参加が利用者職員両者にとって、「基本ケア」の理論の実践成果を実感し確認する場としても意味を持つようになった。このことを見方を変えて換言すれば、利用者の自立への取り組み（自立支援）の目標の一つは、社会参加すなわち社会との関わりの再構築にあると考えることができるのではないだろうか。

今後は、より多くの利用者の誘導、より個別のニーズの充足が課題であると捉えている。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【メモ欄】